

オーシャンドリーム流「英語が苦手の方のテーブルヒント集」

リバーやエコクルーズのなど小型船は、ほぼ100%お食事のテーブルが自由席です。また2人掛けのテーブルはないか、あっても大変少ないものです。

これは、アットホームな雰囲気の中でお客さまどうし交流しやすいようにという小型船ならではの配慮からです。

そこで心配になるのが、「英語が話せない」「自分は英語が苦手」「外国人と同席したらどうしよう」という方。

でもご心配には及びません。ちょっとした小道具と、度胸を持てば何とかなるものです。

まず、「相手を知れば百選危うからず」です。ではどんなお客さまが乗っているか考えてみましょう。

1. リバー、エコクルーズ船のお客様は、似たような価値観をお持ちです

小型船は、大型外洋船と比べ船内娯楽は少ないぶん毎日下船しリバーは様々な町を訪れ歴史・文化を、エコクルーズは大自然の真只中に降り立ち、野生動物や自然に親しみます。つまり似たような価値観、興味をお持ちのお客さまが乗り合わせるのです。

2. 小型高級船は日本贔屓、日本人と知り合いたいと考えるお客様が多い

リバーやエコクルーズのお客様は、押し並べて暮らしに余裕があり本物を知る方が多い → 日本製品の品質、日本人の気質、社会システムに高い評価 → それを作り上げてきた日本人にたいへん好意的です。

3. みなさんが流暢な英語を話すとは思っていない

外国のほとんどのお客様は、日本のお客様にとって英語は苦手ということをご存知です。日本語英語で充分です、通じるポイントは、「大きな声で、ゆっくりと話す」です。

<ちょっとした仕草が、緊張を和らげます>

1. 目と目が合ったら微笑を

乗客の多くを占めるアメリカ人は、知らない者どうし目が合うとにっこり笑います。これは移民の国でお互いあなたに危害は加えませんよ、というサインなのです。これでその場の雰囲気が一気に和らぎます。

2. 相席をリクエストされたら？ もちろんにっこり笑ってOK！

小型船では、お客様の交流を図るため入替え無しのディナーで十分な数のテーブルをご用意、テーブルも大人数席、まったくの自由席です。

このため、ほかのお客様からMay I join you? (ご一緒してもいいですか?) と聞かれることが多々あります。さあどうしますか？ ここはにっこり微笑み、大きなジェスチャーで Yes, please! (さあどうぞ)

まずは、これで第1関門突破です。

3. 相手が席に着きました、さて次はどうしましょう？

ここからが実力の見せ所、人生経験の見せ所です。

ヒントその1.

あなたは、ポケットから携帯電話を持ち出します。できれば画面の大きいスマートフォンならなおいいでしょう。

おもむろに開いて、、、

同席のお客様に、あなたのとっておきの写真を見せましょう。

とっておきの写真とは例えば、、、

- **ご家族の写真** (外国人も家族の写真を持っている人が多い)
- **可愛いペットの写真**
- **最近凝っているフラダンスの写真、40年ぶりに再開したギターの写真**
- **お花見の桜の写真**
- **富士山の写真**
- **初詣の神社の写真、七五三の写真**
- **懐かしい結婚式の写真**



などなど、ポイントはご自身が楽しかった写真、趣味の写真、日本しか見られない写真、日本文化を感じさせるような写真の数々です。

ヒントその2 さて困った「英語でなんと言う？」

旅行用の翻訳機は便利です。またスマートフォンの検索サイトGoogle, Yahooも辞書代わりにたいへん役立ちます。AMAでは船内無料Wi-Fiがありますので、Wi-Fi電波を使えば料金もかかりません。Wi-Fi対応の携帯電話、スマートフォン、タブレット端末などをお持ちください。船でのWi-Fiの設定がわからなければ、レセプションでご相談ください。

そしてGoogle、Yahooで「〇〇（英語で知りたい言葉） 英語」と入力してEnter、確定などを押すと表示されます。お家で練習しておくといいでしょう。



ヒントその3 「言葉要らずで、みんなの注目の的」

100円ショップでも、空港の土産物屋でも、もしなければ便箋をカットしても、折り紙を10枚ほどディナーのポケットやハンドバッグに忍ばせておきます。

会話が途切れたら、チャンスです！（話の最中に別なことをしたら失礼です）。やおら折り紙を取り出して、黙って折り始めます。同席者はあなたの指先に注目です。折り鶴の1羽が出来たら、そっと同席者の奥様の前に置いて差し上げます。相手はにっこり、続いて相手のご主人にも！

アメリカでもORIGAMIを知っている人は多いのですが、折れる人はひじょうに少ないのです。ここは日本人の独壇場ですね！

さらにもっと折ってレセプションに何羽か置いていきましょう。控えめに日本文化をアピールです。ラウンジでちょっとした時間に折って、ピアノやバーカウンターにも。筆者はある船で折り紙をしていて人気者になり、船内で臨時の「折り紙クラス」を開いたことも。

ポイントは、簡単なものでいいので3種類くらいは折れるようにしておくこと。鶴以外に別のものご所望されたときに落ち着いて折れるので。

4. 相手の言うことが分からない時は？ もっとゆっくり話して欲しい時は？

遠慮することはありません、ゆっくりとこう言いましょう。

Can you say it again? Can you speak more slowly.

5. それではリラックスして、お食事をお楽しみください。

一度ディナーで親しくなればもうこっちのもの。次回から顔を合わせたらもう船友でにっこりです。